

周易
錢

未濟
蒙
渙
蠱
火
旅
鼎

徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す
徳を以て人の心を成す

○象曰幹父用譽承以徳也 といふは父の妻也よりして譽

ありては其トモ子何れもの是也たきけりまより其計は
よして我より其まより我たきけりまより其計は

○上九不事王侯高尚其事 けりて是は盜の路子より

高きより其のふし賢人君子の時より其より其計は
世の法より其より其計は

持といはれ我を法よはるはるくたり其の計は

情ありて其の計は

○象曰不事王侯志可則也 といふは世の法より其計は

侯より其の計は其計は其計は其計は其計は其計は其計は

○元龜曰三虫食血之課 といふは三ツの虫血の中より其計は

其計は其計は其計は其計は其計は其計は其計は其計は

○ト象曰其計は其計は其計は其計は其計は其計は其計は

しもの身なり
もたれ ねてけしん位よ辰ときは事々小
ふん変あらん といふ義なり

○象曰、黃離元吉得中道也、
と云ハ是より中道の三
とゆふ少より大善の意あるを云ふより、文昭の位よりま
我よりるの義也、けしん位よ、能く中道の位小あつる厚く不愆で
ふきるなり

○九三日曼之離不鼓缶而歌則大耋之嗟也、
けさる
知ら下作のよりく終るま、前のゆほきんとあつる時、大目
のりり、かきくかこほし、凡そなれば又をさるるあり、望

小達きものハ、時よあ、かつと樂とあり、けしん強てま
とまれ、き、して功ある時を、ま、道徳たの、辰とさる、
又日のあ、ごころとあり、む

○象曰、日昃之離何可久也、
目のより、けしん、けしん、
久しからむ、けしん、
あ、けしん、

○九四突如其来如焚如死如棄如、
けさる、
ま、けしん、
剛、
けしん、

て言ふなり

○象曰得童僕貞終无尤也。とつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

○九三旅焚其次喪其童僕貞厲。けし王は陽剛より陽位よりし王のよりしふ守の故に困るに

けし旅あり過剛不中なるはとつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

○象曰旅焚其次亦以傷矣以旅與下其義喪也。とつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

○象曰旅焚其次亦以傷矣以旅與下其義喪也。とつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

けし旅あり過剛不中なるはとつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

○九四旅于處得其資斧我心不快。けし王は上卦地よりありて陽剛なりとつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

けし旅あり過剛不中なるはとつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

○初六旅于處得其資斧我心不快。けし王は上卦地よりありて陽剛なりとつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

けし旅あり過剛不中なるはとつて六旅人の物下の象は童僕なり其忠貞坤地とんハを悔なからんけし物てふれりの物とてしん誠しし實の物情を意

陰柔なりより我を成のて志を行かじよて情を資
初とひて事此利用よ叶措とふせに勞をるてきて意
○象曰旅于處未得位也得其資吝心未快也。とつよは君子
近き事よあまきども旅の中より位とほざるがごとく資を
乃利用成増きども志を成す極よ行つとるりがごとく
此心持とひ我を強帯あるも居らるにておあることなき
厚くよしそよにあり

○六五 射雉一矢亡終以譽命。此ありて王は旅順文の
徳を中道成増しよりとつよ是しよ与に旅人の勲を賞

可きどもよに道よあまきども失つと多らざるごとく旅は
今固乃ほまれ福祿のさひらをあるり此心持と順徳の
至るゆよ中道よ叶厚くよ情とよにあり

○象曰終以譽命上建也。とつよ是れよくとつよ寫せしめて
譽命とほ旅を困窮あるもあまき事よ外にけられども
六五の徳を以て譽成りてりけり此心持とよにあり

○上九 鳥焚其巢旅人先笑後號咷喪牛于易。此ありて
上九は項上よて鳥巢と焚て安し止り此象あり
吉程と初らに終りてりよ是れよ後よいよからさぶてとる

火風鼎

○繇曰鼎元吉亨

テイハ、ヲヒニ、キツニ、ソトラル

鼎元、かろつとよむ、シモ下の巽、木、ボク枝

よの雞、火の中、カミ入く物と、イシ烹の多かり、ニル玄、オキハ得ふ鼎、オキハ生

と、シ爻、シじと、シ熟、シ剛、シ城、シ化、シく、シ厚、シく、シげ、シ能、シ用、シ城、シかして

人、シ城、シ屋、シく、シか、シの、シぞ、シけ、シに、シお、シく、シ内、シ外、シ法、シ淨、シふ、シな、シま、シの、シ信、シふ

て、シ人、シと、シ屋、シく、シか、シふ、シ道、シ行、シり、シて、シよ、シに、シり、シ。

○彖曰鼎象也、シ以、シ沃、シ巽、シ火、シ亨、シ飪、シ也、シと、シい、シか、シら、シ鼎、シハ、シ大、シイ、シか

る、シ巽、シ少、シく、シ重、シ巽、シなり、シ其、シ德、シた、シら、シと、シ至、シく、シた、シぐ、シに、シふ、シま

人の、シた、シら、シと、シい、シは、シる、シよ、シに、シの、シ成、シ屋、シか、シひ、シん、シら、シと、シ聽、シと

小のつと、明かる徳ありぞ、けんおふて、我身成、柔順小して、
す、こ、剛陽あるつよ、徳の、小も、相應して、大、小、亨、と、何る
座、う、小、徳、ど、も、記、なり、

○象曰、木上有火、鼎、君子以正位凝命、キノ、ウニ、マル、ハ、ヒ、テイ、イ、シ、クニ、シ、コレ、モ、ツチ、ク、ヲ、サ、ラ、ア、ツ、ム、メイ、ヲ、と、いふは、鼎
の、件、重、して、其、形、た、い、一、也、其、用、日、小、新、なる、故、君子、是、を、見
て、其、位、成、礼、を、なく、天、命、成、あ、つ、め、く、失、く、と、なく、徳、つ、ら
ざ、れば、道、何、つ、ま、ら、さ、は、と、と、は、一、三、何、ら、バ、鼎、の、意、成、乃
功、あ、ら、う、と、く、と、く、物、成、く、と、の、な、く、と、く、を、なり、

○初六、鼎顛趾、利出否、得妾、以其子、无咎、ハ、カ、ナ、ハ、サ、カ、ミ、ス、マ、エ、ヲ、リ、ア、リ、イ、ダ、ス、ニ、ヒ、ヲ、ウ、ル、ト、キ、ハ、マ、エ、ウ、ラ、モ、ツ、チ、ス、ソ、ノ、コ、ヲ、ナ、シ、ト、ガ、は、否、
陰、柔、も、す、一、し、よ、何、る、と、て、よ、も、意、む、ら、あ、も、鼎、の、趾、成、顛、も、さ、る
か、て、し、道、の、常、も、何、ら、成、然、も、曰、より、鼎、折、中、も、何、る、否、意、の、物
成、傾、お、し、て、利、何、る、と、妾、成、ゆ、て、も、子、何、ら、が、と、く、よ、し、て
咎、あ、も、ぞ、けん、お、め、利、成、お、ん、も、り、す、し、て、自然、も、利、を
と、何、る、の、情、も、そ、も、記、なり、

○象曰、鼎顛趾、未悖也、利出否、以從貴也、カ、ナ、ハ、サ、カ、ミ、ス、マ、エ、ヲ、リ、ア、リ、イ、ダ、ス、ニ、ヒ、ヲ、ウ、ル、ト、キ、ハ、マ、エ、ウ、ラ、モ、ツ、チ、ス、ソ、ノ、コ、ヲ、ナ、シ、ト、ガ、と、ま、は、鼎、折、の、趾
成、顛、も、さ、る、ハ、道、も、悖、が、と、し、然、も、よ、から、さ、は、抽、成、お、し、去、て
貴、も、あ、る、が、よ、も、す、り、利、何、ら、なり、去、も、係、て、故、成、さ、り、新
と、り、り、恐、お、成、除、善、成、文、の、情、も、そ、も、記、なり、

○九二鼎有實我仇有疾不我能即吉
此何の吉也
剛
象曰鼎有實我仇有疾不我能即吉
此何の吉也
剛
象曰鼎有實我仇有疾不我能即吉
此何の吉也
剛

○象曰鼎有實慎所之也我仇有疾終无尤也
此何の吉也
剛
象曰鼎有實慎所之也我仇有疾終无尤也
此何の吉也
剛

○九三鼎耳革其行塞雉膏不食方雨虧悔終吉
此何の吉也
剛
象曰鼎耳革其行塞雉膏不食方雨虧悔終吉
此何の吉也
剛

此の物も、少くも是の通り有り、備は長何れ哉、剛は
さきづりやうも、情でも記あり、

○象曰鼎、耳革、失其義也。こりふは物の革、と何まきと我
よね、意なきと、誠来らぬ義と失ふと何りて、あからざれば
玄、禮也、と、文明的の徳有り、ト、剛、陽乃方、何り、みより、陰
柔は、陰、陽、お、和、め、る、と、く、と、下、和、合、何りて、長あり、

○九四、鼎折足、覆公餗、其形渥、出。け、何、と、下、大、臣、の、位
より、任ミシまシより、賢智のよりのとカラ、と、合セ、と、家ノと、治ス
と、ば、我、力ウチ、芳ホシ、せ、使シ、て、よ、記、せ、然シ、と、上ニ、何りて、トモの
小人、其、用、い、て、ハ、主、任ニ、係、ぞ、し、て、モ、事、成、敗、ハ、鼎、折、の、足、也、

を、ら、ご、と、く、ま、そ、公、の、餗、成、ぶ、り、て、何、き、ぞ、此、の、物、と、ん
よ、記、の、と、天、禄テンロク、と、敗ヤズル、と、列ツラ、宗、社ソウシャ、成、危キウ、と、な、ま、の、輔ホ
こ、し、て、モ、主、任、成、し、る、が、ば、厚、の、情、何、の、記、あり、

○象曰、覆公餗、信如何也、こ、ま、は、大、臣、の、大、任ニ、よ、何、し、る、と、く
と、下、の、悔、治、あ、る、ま、は、上、の、ふ、き、と、下、の、ま、い、知、る、よ、より、
こ、ま、通、し、任、せ、て、期、ま、り、成、失、ら、ば、信、何、の、ふ、も、ら、ぞ、此
の、物、と、り、り、の、み、委、任イニ、を、由、と、信、と、何り、や、い、か、や
と、少、行、と、ん、て、失、誤シツ、ふ、記、の、成、敗セツ、の、情、何りて、長あり、

○ト解曰、鼎者烹飪之器也、と云は、折、花を烹飪は、
中み蒸るに居るみんをこし、くし、事と云は、調知、
回、かゝることを改、新みあ、ぐい人と、生み成る、
情、あて、ま、は、り、

○火賛曰、鼎者、変生、以為、香味、と云て、鼎、は、生、に、抽、を、
し、その、く、て、何、ぢ、ら、い、地、を、き、然、し、も、
ゆ、り、争、ひ、は、う、ふ、と、な、に、極、ま、情、で、ま、は、り、

火水未濟

○録曰、未濟、亨、小、牝、汔、濟、濡、其、尾、无、攸、利、未、濟、終、い、ま、ぶ

ろ、ら、ぎ、と、ま、む、牝、を、水、と、濡、さ、ど、小、牝、を、ま、せ、れ、る、く、
洵、む、と、ま、ら、あ、り、尾、と、う、ぶ、を、ま、せ、る、と、な、ら、が、な、ら、ず、

ま、せ、老、牝、を、氷、と、踏、で、ま、陥、ら、ん、と、成、れ、れ、濟、居、る、ま、抽、り、

ま、は、り、と、か、ん、ぐ、情、あ、ら、ば、ま、の、成、能、ま、ら、と、何、ま、て、ま、は、り、

○彖曰、未濟、亨、柔、得、中、也、小、牝、汔、濟、未、出、中、也、と云は、下、の

二、又、と、陰、柔、ま、て、柔、陰、を、居、り、中、道、と、ゆ、ら、あ、り、未、濟、の、時、

れ、た、意、と、あ、り、下、の、二、と、剛、滿、を、成、り、の、除、け、ま、あ、て、

あざり取よ河ぞどとね無しそをくぞらんとさるい小瓶
のぞく陰中城かふ工なかりごとく此の物よそ進よの洗
そのハ退とも中記すち事よ進の袖あふく情のバ
海り遂乃時何りてをなかり

○象曰火在水未濟君子以慎辨物居方ハラニ ところは火水

がれば月城はじごとく火の木よあるハも雲とあざら
乃象ニモナリ君子是成見て物ノ群ハナリありもの、分ワケチ城ヲ辨ハて方
の類シあつちりある工の礼レがば厚クうまなきぞ此の物よ
物ノ辨ハあり工あ火の性ニ成ルめく辨ハあるごとくよと

のあるづき方成礼レがば厚クうまなきぞ此の物よ

○初六濡其尾吝ハ此何レ王亦ハ陰柔也ハもるん方よそ陰

取よありて其居亦成安トごとく人よなきるりの物よ
ども中ニなむらむらぎしてたまけ濟スとなれあよ瓶の尾を濡
して濟スとなりごとく此の物よそ我が方とそらり情
でまればあり

○象曰濡其尾亦不知極也ハとりよと我カ方成王カからて

るくうぶらみ進メば尾城濡して濟スと何レとごとく我カ知
さるの極ありけつ物よそ物ノの端ニと遂ニなるとは始メ

○上九有孚于飲酒无咎濡其首有孚失是

取は剛的もそよまあり天はたのしみぬまありがむ

て智巧もよぶし飲酒をたのしむるれたるゆゑ濡其首

と云は直きと失つる咎ありたのしむるゆゑ濡其首

○象曰飲酒濡首亦不知節也

よつゝむとつゝも其禮法あらざれば濡首なるはよ

しからむ何事をも節法失する極む情でもなり

○元龜曰竭海求珠之課

飛ぶごとく事よをこたらぬして窮まるるも何れも珠を

得たりがごとくも何れも憂中望喜と云てん言まり

中も喜慶有りむ

○ト解曰未濟未成之時也

る時危下とるごとく誠ありて情の純まことも情

人のたむる有りて陰難も海に何れも

○ト象曰船在水流何時到岸

あれたもよに岸はけさるも也も情を楫とるもも

よしくるも持てたる

○評曰此卦水火不交也

リフアトハモチニケイニスニテ...

○象 利用刑人以正法也 といハ偽器執流の始なり

甚偽器執ふせぐは地を養ふ善い善いするなり

象と沙の物とを始に法成たるあるとは是れ也

と成れしを造偽蒙の心成るるふまの情を去るあり

○九二包蒙吉納婦吉子克家 此何と云ハ蒙昧の時

正ても剛のほく何きつるふ方何りそ五の君もく

意ざりしより時の任は何と云君病るものも何れむ

の特もそふに我剛のたの三物ほるんをそふに

かゝるる也吉婦人のどのに象周るものも也

と地の上の功成なきと何んけん持成情そふにあり

○象曰子克家剛柔接也 といは子乃能家と流とは

父の專はあうまらよふ也吉より上との情をくまら

ざればはうさざりてありきと下も意ある極情也

つとそふにあり

○六三勿用取女見金夫不有躬元攸利 此何と云知臨

象のよむに方とて西かゞ女の家は動が正し我がま

意成つるもの何とも孝よりあつてあつて

其の成ゆえにんあつての成るるに象を

りの持てて是よりあつがらんといふ女の金夫成りて為成
傷タモシさるがごとくけふ世といふ我の好意あること成程に利
成りて為と忘ワスレてくるは情をもひかる

○象曰勿用取女行不順也トシハ女の行を五とと志
しそふしく意なきの成程に令夫と悦ヨシて是よりあつが
邪成ヨシ道みて身成保チし利成りて為と忘と成程
ありてはなり

○六四困蒙吝クニムけりしは陰陽の蒙昧に剛的の
あつしまたまけるふきふより蒙昧と冥キ難きなり蒙
よりしむぞ能剛的の輔と求てあつしと迫づん
持てしむなり

○象曰困蒙吝之吝遠實也キツハヒトリトヲサレバニといふは蒙昧のついで
剛のたあけと蒙昧のついでに交陰陽の身と陽
剛のたあけと蒙昧のついでに蒙昧のついでに
あつしと迫チカがはるるなり蒙昧のついでに
あつしと迫チカがはるるなり

○六五童蒙吉トウモウけりしは蒙昧のついでに
蒙昧のついでに蒙昧のついでに蒙昧のついでに

任^ニあるより衆人の善^ニ成^ルと^シて^ハ此^レを^モ以^テ計^ル持^ス
も^ハ人の君^トするもの^ハ謀^ハ成^ルも^ハ計^ハの^ハは^ハを^セ我^ノより
る^ハま^ニと^テあ^リ人^ノは^ハま^ニき^ケら^ハく^ハせ^ウも^ハ情^ハ何^レバ^ハ其^ノ功^ハ也^ニ
ま^ニと^テ我^ノあ^リま^ニと^テも^ハそ^レを^シの^ハあ^リ

○象曰童蒙之吉順以巽也 ト云ハ我^レ成^ル推^テ人^ノの^ハ從^フと^シて
志^シと降^ル下^ニたる^ハも^ハ記^スりの^ハも^ハ求^ムと^シて^ハ記^スる^ハも^ハ初^メに^ハ持^メ
れ^バ衆^ノ人の^ハ志^ハよ^クお^シ愈^スき^ハる^ハや^ハも^ハあ^リと^シて^ハい^ハる^ハま^ニの^ハ情^ハ也^ニ
○上^ニ九^ノ擊^ツ蒙^ニ不^レ利^ハ爲^ス寇^ト利^ハ御^ス寇^ト ト云ハ上^ニ九^ノ擊^ツ蒙^ニ不^レ利^ハ爲^ス寇^ト利^ハ御^ス寇^トト^シて
り^ハま^ニより^ハ忌^ム蒙^ノの^ハ移^ルる^ハぞ^ハ玄^ノ禮^ハも^ハ忌^ム蒙^ノよ^クと^シて^ハ志^ハ也^ニ

か^ハと^テあ^リれ^ハど^ハあ^リま^ニの^ハは^ハ謀^ハ成^ル也^ニと^シて^ハ人^ノの^ハ忌^ム蒙^ノ
也^ニと^シて^ハあ^リも^ハ我^ノより^ハ剛^ハ暴^ト也^ニ肆^スる^ハす^ハの^ハも^ハあ^リま^ニと^シて^ハ
計^ハ持^メ也^ニと^シて^ハ情^ハで^テも^ハ記^スる^ハ也^ニ

○象曰利用御寇上下順也 ト云ハ剛^ノの^ハは^ハ記^スる^ハも^ハ記^スる^ハ也^ニと^シて
何^レも^ハも^ハ寇^ハ也^ニと^シて^ハ記^スる^ハも^ハ記^スる^ハ也^ニと^シて^ハ記^スる^ハも^ハ記^スる^ハ也^ニと^シて^ハ
た^ハる^ハの^ハも^ハ其^ノ止^ムも^ハあ^リま^ニと^シて^ハ記^スる^ハも^ハ記^スる^ハ也^ニと^シて^ハ
と^シて^ハ情^ハ何^レバ^ハ上^ニ下^ノ順^ハ也^ニと^シて^ハ中^ニと^シて^ハ時^ハと^シて^ハあ^リま^ニ

○元龜曰人藏烟草之課 ト云ハ元^ノ龜^ノ曰^ク人^ノ藏^ス烟^ノ草^ノ之^レ課^トト^シて
ヒト^ノカクル^ハニ^ハモ^ハソク^ニ

めんも能く情を勘みあはるる業物生まらざるも時
あむと云ふ事あり

○ト解曰業者昧也物の初て生ぬかまらざるがゆんぞ水の山
よりあはる山の下のまをまり流り下るにぞく進が
く退がよしてうまの進つた物ばま人の接
地用いよと云ふぞ能く人ま導すま水の流るるに
吾のんとも云ふ

○火真曰水下有泉退即因險進則逢山と云ハ山乃ト泉
ありて流るるにやまらざるがごとく進退をまらざる

何れも然らばま道に迷ひてはまらざるも其何れも
能く情を勘みあはるる

○火歌曰童蒙初受訓と云ハ童子の人は教へたうま
云はるるにざるんぞ進退あはるるまらざる
も情思を何れもまらざる

○ト录曰不利涉險と云ハ一がまはるるにまらざる
利のまらざるをそれ情を勘みあはるるにまらざる
まらざるはまらざるにまらざる
一もまらざると云ふ事あり

陰陽のものは性にして、
行ふが如きは、
ちるまににぞけしむるごとく、
人の心城よく飯まら私小情あて天
の散城あつむるごとく、
ゆる叶大川と流ぞく功あつてあなるも、

○象曰風行水上渙先王以享于帝立廟
水と小散ゆくの象あり先王是城んと享祀の常り也
天の心もあつめ救とどなきぞ世にわめく
人とのあつめ和合しく我の飯披まら私小情よくあなり

○初六用拯馬壯吉
時あり是城まらあそあるめは馬の壯なりとわめく
あそあつめなまらしく我はらざら城まらひなきまらあまら
勞せむして進まあるそはなり

○象曰初六之吉順也
あるんが陸の功となきまらあるは時よあつらあて也

○九二渙奔其机悔亡
陰中めあつた悔るそ何れ机ハ俯憑と人の心しれ馬
馬の小してんぞはなり

あゝらん...の...
て...
て...

九五 漢汗其大號 漢王居无咎 けあ...
ハクシノアセノ知ニシレシニヒニサトフクニライテワロノ#ニテ

と同一 中山 驍 順の道 城...
ヲナシテ チウセイソニンニシニ

とるまきよんの...
セウゴウ

汗の...
ハニ

くふとあまて 咎なき...
チカラ

〜く...
〜

象曰 王居无咎 正位也 といは人君...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

い咎なき...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

て...
〜

上九 漢其血去 遯出无咎 此何...
ハクシノアセノ知ニシレシニヒニサトフクニライテワロノ#ニテ

卯...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

おて无...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

るふ...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

よく...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

象曰 漢其血遠 害也 といは下...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

の外...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

いん...
ト云ハ人君トシテ正位トカ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page, with some lines appearing to be organized into columns or sections. There are several large, irregular stains, particularly a prominent one near the bottom center, which obscure some of the writing. The overall appearance is that of an old, well-used document.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page, with some lines appearing to be organized into columns or sections. There are several large, irregular stains, particularly a prominent one near the bottom center, which obscure some of the writing. The overall appearance is that of an old, well-used document.

132X
32/8
10